

ベルリンでの「グローバルな食料安全保障に向けた結束」-ロシアのウクライナ侵略は世界的な食料不安を生み出している

以下のモロッコ王国駐箚大使及び常駐代表による公開書簡：

Michael Cutts, オーストラリア
Plamen Tzolov, ブルガリア
Ladislav Škeřík, チェコ
Hélène Le Gal, フランス
Nicolaos Argyros, ギリシャ
Armando Barucco, イタリア
Keevong Chung, 韓国
Siur Larsen, ノルウェー
Bernardo Futscher Pereira, ポルトガル
Ricardo Díez-Hochleitner, スペイン
Simon Martin, 英国
Patricia Llombart Cussac, EU

Véronique Petit, ベルギー
Nell Stewart, カナダ
Unna Mustalampi, フィンランド
Robert Dölger, ドイツ
James McIntyre, アイルランド
倉光 秀彰, 日本
Jeroen Roodenburg, オランダ
Krzysztof Karwowski, ポーランド
Maria Ciobanu, ルーマニア
Anne Höglund, スウェーデン
David Greene, 米国

ロシア軍のウクライナ侵略が引き起こした危機により世界の小麦市場は極端な価格高騰の時期に入った。多くの国で食料と肥料が不足し、食料価格の高騰が加速すれば、脆弱な社会は不安定化し、飢餓と栄養失調が増加し、移住へと追い立てられ、深刻な経済的混乱が生じる恐れがある。ウクライナに対する違法で非道な攻撃により、世界の食料安全保障問題は大幅に悪化している。あらゆる兆候が更なる事態の悪化を示している。

それについては疑問の余地はない。プーチンのウクライナ侵略は、世界の穀物供給を危険にさらし、世界で最も脆弱な人々の間で食料不安を引き起こしている。この差し迫った危機の解決策は単純だ。ロシア政権はウクライナに対する残忍な侵略を停止する必要がある。穀物危機の原因は明らかであり、プーチンの爆弾が破壊したすべての小麦畑、殺害されたすべての農民、黒海の港で封鎖されたすべてのウクライナの船舶に容易に見て取れる。

ロシア軍は、2000万トンの既存の穀物がウクライナからモロッコを含む世界中の国々に輸出されるのを妨げてきた。さらに、信頼できる報告によると、プーチンの軍は国際法や協定に違反して、ウクライナからロシアの支配地域に小麦を輸送している可能性があり、このため穀物の輸入を切実に必要としている国に小麦が届かなくなっている。

ロシア政権自体は、自国の多種の穀物や肥料の輸出を停止するか、「友好国」と見なす国にのみ輸出することを選択した。これが状況をさらに悪化させており、それはまたプーチン大統領が自らの侵略が飢餓で世界を脅かしていることを十分認識しているこ

とを示している。食料を兵器化するという決定はモスクワだけのものであり、国際社会にウクライナの侵略と占領を受け入れるよう強制することを目的としている。しかし、食料安全保障と栄養は公共財であり、飢餓は武器として使用されてはならない。

ロシア指導部は、G 7 諸国等が課した制裁を食料危機の要因として非難している。これは事実と反している。それは、ウクライナへの違法な侵略から非難をそらそうとする試みにすぎない。実際、我々の制裁は食料供給を明確に除外しており、どの国もロシアから小麦を購入することを妨げていない。制裁はさらに、農産物だけでなく、他の人道のおよび医療用産品も除外している。代わりにこれらの制裁措置はプーチンの戦争計画を阻止し、他国の主権と領土保全（ウクライナ等における）、および他国の食料安全保障（モロッコ等の）を保護する手段として設計されている。

ルーマニアやポーランド等のウクライナに隣接するヨーロッパ諸国は、先週エジプトの小麦入札の際に行ったように穀物の陸路輸送により救援している。但し、容量ははるかに少なくコストがはるかに高いため、これは暫定的な解決策にすぎない。事実、ロシアの軍艦が数百万トンの小麦が輸出を待つウクライナの港を封鎖している。

食料不安に対処するためには、G 7 及び他の役割を担う諸国とのグローバルな協調行動が必要である。G 7 や同志国は、ロシアの侵略によって引き起こされたこの危機にある国々の支援にコミットしている。我々は、世界食糧計画（WFP）の活動や地域の枠組への支援強化、二国間援助や国家プログラムによる支援を通じて、この危機に対応するための協力を強化している。ロシア政府はそうした支援を提供できていない。

モロッコは、他の多くの国と同様に、国民のために小麦やその他食料品の輸入調達確保に積極的に取り組んでいる。この食料危機に立ち向かうため、多くの国や組織、食品輸出・輸入業者が今日ベルリンで会合を開き、世界の農業市場の開放を維持するための解決策を模索している。我々は危機を緩和するためウクライナの食料生産と輸出を引き続き支援していく。我々は、人道問題として穀物の輸出を確保し、困窮している人々に産品を円滑に届けることができる「食料のための人道通行」の実現を求める。

食料不安の回避はロシアの体制にあらゆる影響力を行使することによってのみ可能となる。ここでモロッコにも強力な役割がある。プーチン大統領は、世界的飢餓を回避するために、彼の侵略と破壊、そして世界に不可欠な食料供給の遮断をやめる必要がある。このため、モロッコが誇り高いメンバーたる国際社会による結束した対応こそが何よりも求められている。